

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007 News vol.16



平成19年11月9日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



外国二輪車

「輸入バイク」新時代を予感



「東京モーターショーのブースは、とにかく他社とは違う独自性のテーマとレイアウトをしている。これからはユーザーのライフスタイルマーケティングを深めていきたい」(奥井俊史HDJ社長)、「ここ3年連続して前年対比35%増の販売実績。伸び率は業界ナンバー1の数字で、いま最も注目を浴びているブランドです。」(新井文雄トライアンフ ジャパン社長)、「MotoGPチャンピオンのブースにようこそ。世界で最も速く・美しく・セクシーなモーターサイクルがドゥカティです」(ファブリツィオ・カッツォーリ ドゥカティ社長)——10月24日、北ホールで行われた外国二輪メーカー代表のプレスブリーフィングはどれも活気にみなぎっていた。

それもそのはず、業界調べによると、06年における輸入車の小型二輪(251cc以上)と軽二輪(126～250cc)を合わせた新規登録台数(販売台数)は前年比8.0%増の2万7,000台を超え、

05年に続き過去最高を記録。とくに海外勢が得意とする小型二輪は前年比6.3%増の2万2,600台強となり、過去最高を更新した。今年もその勢いが続いている。

市場の好調を受け、外国二輪メーカーはこぞって積極的な販促活動と販売・サービス体制の拡充に乗り出している。ハーレーダビッドソンは12月末まで、なんと最長150回払い(12年半)の超長期ローンを全シリーズで展開。エントリーモデルの「XL 883」(88万3,000円)だと月々3,000円台でハーレーが買える勘定だ。トライアンフは専門店「トライアンフワールド店」を現在19店舗に伸ばし、さらなる拡充を図る。ドゥカティが日本限定モデルの「モンスター400」の投入に続き、MotoGPのリアルレプリカ市販モデル「デスモセディチRR」の日本出荷をうかがうなど、外国メーカーの攻勢が本格化してきそうだ。

外国二輪車

ハーレーダビッドソン

目を見張る08年モデル群に、105周年記念限定モデル



古き良きアメリカのミッドセンチュリーを体現したデザイン・ブースは、やはりハーレーならではのアバンギャルドな香りが漂う。08年に生誕105周年を迎えるに当たって、「ビューエル」も含め19もの08年モデルを一挙公開。そのうち14車種にマニア心をくすぐる、シリアルナンバーを刻んだアニバーサリー仕様を設定している。



かつてない斬新なカスタムスタイルの「FXCWC ロッカー C」



究極の純正ファクトリーカスタム車「FLHTCU3-CVO」



ハーレー生誕105周年記念限定モデルの「FLHTCU3」

ソフトテイルファミリーの進化版となるのが「FXCWC ロッカー」「FXCWC ロッカーC」、オリジナルペイントや数多くの純正パーツ&アクセサリを贅沢に施した「FLHTCU3-CVO ファクトリーカスタム・ウルトラクラシック・エレクトラグライド」「FLHR4-CVO ファクトリーカスタム・ロードキング」のいずれもが来年1月以降に発売予定だ。

ドゥカティ

MotoGPの圧倒的強さをそのままブースに

ブース最大の呼び物は日本初出品の「ドゥカティ デスモセディチRR」だ。MotoGPで圧倒的な速さを誇るドゥカティが初めて世に問うロードゴーイングGPレプリカ。MotoGPでの経験をダイレクトに注ぎ込んだテクノロジーとパフォーマンスの高さが、「夢が現実のものとなる」パッションを存分に味わせてくれるだろう。

世界で唯一、公道走行可能なリアルレプリカ市販モデル「デスモセディチRR」



DUCATI

トライアンフ

「go your own way」を訴え、1WP・4JPを出品

今夏発売の新型「ストリートトリプル」や「デイトナ675」など個性的な水冷3気筒エンジン搭載のアーバンスポーツレンジ、品格と歴史が重なるバッチカルツインエンジンを積んだ「ボンネビル」に代表されるモダンクラシックレンジ、世界最大の排気量を誇る「ロケットスリー」などのクルーザーレンジと、3つのレンジに分けたブース展開にはメッセージが込められている。語りかけるのは、一人ひとりのライフスタイルに合った、人とモーターサイクルの新しい関係「go your own way」の提案である。



ジャパンプレミアの「ストリートトリプル」はミドルウェイトネイキッドの新スタンダードに

◀08年春発売予定のワールドプレミア「ロケットスリー・ツーリング」



TRIUMPH

キムコ

世界最大排気量スクーターを世界初出品



台湾の二輪車メーカー、キムコはワールドプレミアのビッグスクーター「マイロード 700i」を出品している。無段変速機を使ったATスクーターとしては世界最大排気量となる699.5ccの2気筒エンジンを搭載。最高出力は55馬力と、高速クルージングも余裕でこなす高性能だ。

来春日本で発売予定の小型レーサー「クアノン 125」、スクーター「スーパー 8 125」など5台の日本初出品モデルも。



「マイロード 700i」

アディバ

台湾産のイタリアンスクーターが登場



「Advanced Sensitivity (先進的な感性)」をテーマとしたイタリアの二輪車メーカー、アディバのブースでの注目モデルは、世界初出品となるアジア市場向けの小型スクーター「ハイパー 125」と「フィエルス 125」の2台。アジア戦略の拠点として今春完成したばかりの台湾工場製のモデル。

デザインと設計はイタリア本国で行われているというこのモデル、日本の道路事情にもジャストフィットする。



「フィエルス 125」(左)と「ハイパー 125」(右)

楽しく、ためになる“安全家族”の集い



西休憩ゾーンのライフスタイルパークには、来場ファミリーにとってすごく楽しく、かつ、ためになるイベント・施設がふんだんにある。

まず目につくのがシートベルトコンビンサー。時速約5キロ(自転車でゆっくり走る程度の速さ)で塀などに衝突した時のショック度が体験できるもの。たった5キロでシートベルトをしていても、意外な衝撃度に「わぁ、スゴイ」の奇声が続く。これで(時速)100キロでぶつかったらどうなるのかな」とあらためてシートベルト着用の大切さが実感できる。

隣にある「安全運転適正診断スマイル号」はドライビングシミュレータを載せていて、日頃の安全運転度を測ってもらえる。ここは、パパの日頃の安全テクニックをチェックしておくのに最適だ。

またその隣には、土・日曜日に来場した子どもたちに“子ども運転免許証”を

交付したり、警察官の制服を貸し出したりするサービスコーナーが設けられている。

クルマと警察のかかわりを知って、交通安全を守るお巡りさんに親しんでもらおうという体験学習を目的としたもの。子ども免許証は、本物そっくりのカードに、住所、氏名、年齢を書き込み、撮ってもらった顔写真を貼って、ラミネート加工してでき上がり。

これも本物に似せて仕立てられた可愛い男性警察官や婦警の制服を着た子どもたちが、コーナー前広場に置かれたパトカー、サイドカー、白バイをバックに思い思いのポーズを取り、親が構えるカメラに向かってVサインを送るなどほほえましい光景があちこちで。県警音楽隊が演奏する勇ましいマーチが、イベントムードを盛り上げている。



小中学生特別見学日

前回は上回るのべ29校2,557人が参加



子ども免許証とキティちゃんグッズを手に大喜びの児童たち

小中学生による特別見学が今回より、対象校を千葉市近隣から千葉県内に拡大公募した結果、今回は前回ショー(2005年)を上回るのべ29校、2,557人が参加。会期中8日間にわたって分散見学。例えば11月5日来場の千葉市立千城台旭小学校は5年生61人が12グループに分かれて見て回った。応募理由を同校の小林美美先生は「課外学習として日本を代表する自動車産業を肌で知ってほしい」と語る一方、「ウチの生徒は都会っ子でないで、あまりの華やかさに気遅れしているようだ」とも。だが昼食後、そんな先生の心配をよそに、橋紗南ちゃんがリーダーのグループはお目当てのJAFブースにまっしぐら。交通安全クイズに答えてゲットした、子ども運転免許証書とキティちゃんグッズを手にはしゃぎだした。

VISITORS INTERVIEW

来場者に聞く



花澤 伸好先生
(千葉市立菅田東小学校)

子どもたちの体験学習イベントを増やして

「エコカーが、ずいぶん増えましたね」と感想を語るのは、4、5年生131人を引率して来場した千葉市立菅田東小学校の花澤伸好先生。東京モーターショーの小中学生見学会に参加するのは前回ショーに続いて2回目だが、「当校は千葉市から環境モデル校に指定されているので、環境教育には力を入れています。5年生の社会科で、ちょうどこの時期に自動車を取り上げるので、論より証拠、見学すること自体が大変な勉強になります」とのこと。最後に「子どもたちが体験できる学習イベントをもっと増やして欲しい」と、チョッピリ注文も。

「ミニシアター」 クルマの夢・楽しさ・素晴らしさが伝わる 2本立て“感動傑作”絶賛上映中

クルマの夢・楽しさ・素晴らしさを大勢の来場者に知ってもらおうと、第40回の節目となる今回の東京モーターショーでは、会場内の国際会議場3階(302号室)に「ミニシアター」を開設している。最終日の11日までの午前(10:40~12:25)と午後(13:10~17:35、土・休日は18:35まで)の間、日本自動車工業会製作の2本のオリジナル映像を繰り返し上映している。

1本目はサイエンスプロデューサーの米村でんじろう氏をナビゲーターに、日本車の最先端の安全技術、環境技術をわかりやすく楽しく紹介する「『情報』から見える未来のクルマ」。2本目は、約1年をかけてレーシングカーの製作に取り組む大学生チームの汗と涙と歓びの姿を追ったドキュメンタリー「クルマづくりへの挑戦〜第5回 全日本 学生フォーミュラ大会物語」。2本を合わせた上映時間は約45分間だが、ミニシアターに訪れた来場者からは「世界に誇る日本車の高い技術力と、その源泉となる『ものづくり』への熱い思いが伝わってくる“感動傑作”」となかなかの評判だ。



見て・聞いて・さわって 納得できる 東京電力「オール電化情報ステーション」



西ホールと中央ホール間の「やすらぎのモール」にある東京電力の展示ブース。環境にやさしい電気自動車の共同開発を進めている三菱自動車の「i MiEV」と富士重工業の「R1e」の2台の展示コーナーに加え、空想生活でもおなじみの「Switch! the design project」のアイテムを中心に、「電気と暮らし」について、見て・聞いて・さわって納得できる「オ



ール電化情報ステーション」を“新設”。安全性が高い調理器具として注目されているIHクッキングヒーター(電磁調理器)をはじめ、家電製品の上手な選び方や使い方などを女性アドバイザーが親切にナビゲートしてくれる。

さらに、「クルマもオール電化な暮らしの一部に」をキャッチフレーズに、トヨタ車体の電気自動車「コムス」をリビングルーム内に「駐車」ならぬ収納するという新たなライフスタイルも提案。すでに100万世帯で使用されているという家庭用自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯機「エコキュート」をアピールするのが狙いだが、東京モーターショーの来場者も「かなり関心が高い」(説明員)という。

今日のイベント(予定)

**11月9日
(金)**

<ライフスタイルパーク(西休憩ゾーン)>

- **ダブルダッチ**
10:45~11:15 / 15:45~16:15
- **bayfm78 東京モーターショーレポート**
11:30~12:00 / 14:00~14:30
- **WHO「運動器の10年」**
キャンペーントークショー
12:15~13:15
- **トライアルデモンストレーション**
13:30~14:00 / 15:00~15:30

- **スロットカー・サーキット**(北ホール2階・キッズパーク)
10:00~18:00
- **ミニシアター〜クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ〜**
10:40~12:25 / 13:05~18:30 (国際会議場3階 302号室)
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **セーフティドライブ体験試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- **商用車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所: 幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



毎分**65枚フルカラー**出力 印刷から加工までインラインで高速処理。
※A4ヨコ 多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。

The essentials of imaging

フルカラー・オンデマンド高速印刷システム ON DEMAND PUBLISHER C65



このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL 03-5205-7820
URL <http://konicaminolta.jp/pr/odp>